

はくぼく

No 1 8 6 2012-5-25 (金)

発行責任者 三浦 眞 吾

事務局 吉田 朝 夫
釧路市美原3丁目57-4 電話 36-7426

喜寿顕彰者

【釧路支部九名の顕彰者】

今年度の喜寿を迎える会員は、道総会
で六十六名が紹介されました。
参考までに各支部の人数を紹介します。
・石狩・札幌(米寿一名・喜寿二四名)
・後志・小樽(米寿一名・喜寿一名)
・上川・旭川(喜寿四名)
・胆振・室蘭(喜寿二名)
・空知十勝(喜寿四名)・根室(喜寿一名)
・十勝・帯広(米寿一名・喜寿一名)
・網走(喜寿五名)・釧路(喜寿一名)
釧路支部の十一名は、次の方々です。

- ・大沼 良治さん
- ・児玉 ヨシエさん
- ・樹下 和子さん
- ・村上 典子さん
- ・原 邦彦さん
- ・福 浦 寛さん
- ・家田 義久さん
- ・浅見 あけみさん
- ・和田 正文さん
- ・福 井 慎さん
- ・池田 幸男さん

今回の顕彰者は、一九三五年生まれの
(昭和一〇年)方たちで、国民学校の少
国民として、軍国主義教育の真只中で
教育を受けた人達です。七七年の長い人
生、ご苦労様でした。後期高齢者と区分
されましたが、まだまだ死ねません。
賞状と記念品(三色ボールペン)は、
後日、道退教本部から送付されます。

第二十一回道退教総会終わる

【五月十九日・札幌市・北海道労働センターを会場に開催】

去る十九日、札幌市北海道労働センターに於いて、第二十一回道退教総会が開催されました。釧路からは、幹事の三浦と代議員として、有田さん辻さん荒木さんの計四人が参加しました。定刻の午後一時、議長に選出された荒木さんの発声で開会しました。物故者の黙禱の後、昨年病気でなくなられた太田会長に代わって、加藤副会長が開会の挨拶をされました。この中で「これからの道退教の行く末」について、新たな加入数が低くなってきていること、高齢化して来ていること、新会員の加入促進に力を入れる必要性について述べていました。釧路支部も同じだとの思いを強くして聴いていました。来賓は、高退教会長と道教組の書記長お二人で、道教組の書記長からは「大変元気で活動している先輩の道退教の皆さんは、茨の道を歩いている各地の道教組の仲間達を励まし、力になっていただきたい。」との要請がありました。今年の喜寿は六十六名、米寿は四名で、その内出席した三名の喜寿の方に記念品が贈呈されました。(釧路支部は喜寿が十一名)

経過報告・決算報告、承認の後、新年度の活動方針案、予算案が提案され、各支部の活動を発言して貰い、両案とも承認されました。釧路支部は、支部の会員が原告として関わって取り組まれた釧路市議会議員の「政務調査費裁判」について、有田さんが発言しました。一部規約の改正がありました。「会計」は「役員」ではありませんでしたが、役員にすることに改正されました。今年には役員改正の年で、空席の会長には、渡辺務副会長がなりました。(渡辺さんは道の年金者組合の委員長もされています)新しい副会長には、長い間会計を担当されていた伊藤さんがなりました。支部一名選出の幹事には、引き続き三浦がなりました。

例年のように、総会アピールが提案、可決された後「原発から撤退し、自然エネルギーが生かされる日本社会を子どもたちに手渡すために」という決議案と「橋下維新の会」による「教育基本条例『職員基本条例』の撤廃案」の決議案の提案があり可決されました。今年の総会は、各支部から意図的に発言の準備をさせて参加出席させたことが特徴的でした。各支部とも、支部員を一人所に沢山結集させて、行事なり活動をするのに難しさを抱えているように、釧路も同じだと感じました。また、各地域での「いのちと暮らし、平和や民主主義を守る闘いや運動では、どこでも道退教の仲間が奮闘していることが分かり励ましになりました。総会終了後、五時半から、道退教結成二十周年記念レセプションが共済サロンで行われました。来賓を含め六十名ほどが参加しました。

道退教の結成は、一九九二年六月二十九日、この時点の会員は一五二名だったそうです。(現在は九一八名です)ひと月遅れて翌七月、全道で一番早く、釧路支部が結成されています。釧路の先輩たちの志の高さを改めて強く感じました。このレセプションには、元釧路在住の坂野寅雄さん、若狭博光産、山田幸子さんも出席、相交わず大変元気で地域で活躍している様子を話してくれました。(三浦記)

第六四回パークゴルフの案内

五月の今年の初打ちを楽しみにしていましたが、雨のため中止となり残念でした。恒例の焼き肉パーティーを企画しましたが、いつも利用しているテントがなくなり、紺野さんに頼んで手配してもらいましたが、あちこち当たって見たが、場所や肉の手配が困難ということ、焼き肉パーティーの企画はできなくなりました。その代わり大黒さんのおいしいミン汁を考えていたことでしたが、自然には逆らえず残念でした。

- ・期 日 六月二十九日(金) 九時 二トリ家具店駐車場集合
- ・場 所 標茶河畔パークゴルフ場
- ・参加費 五〇〇円(ガソリン代・その他) 弁当持参
- ・締切日 六月二〇日(水) 期日厳守
- ・申込先 ・大西(37-2209) ・千葉(42-4873)

第二十一回道退教釧路支部総会

- ・期 日 六月二十二日(金) 午後一時〜五時
- ・場 所 プラザ幸 三F小ホール ※三〇名程の出席を予定しております。
- ・参加費 一五〇〇円(懇親会) 年に一回の顔合わせです。元気な顔
- ・締切日 六月十三日(水) 期日厳守 を見せて下さい。待っています。
- ・申込先 同封のハガキで報告(近況報告も)

米海兵隊移転訓練反対

6・3全道集会

- ★ 米海兵隊の移転訓練反対！
- ★ 米軍普天間基地の固定化反対！
- ★ 米軍の新基地建設反対！
- ★ 沖縄と連帯し、北からの
安保闘争を巻き起こそう！

日時 6月3日(日)13:00 ~
会場 ウェディングプラザ別海
講演 中村 司(まもる)氏

沖縄県労連(沖縄県労働組合総連連合)議長

各団体や、関係所属からチラシや案内文書がお手元に届いていると思いますが、退職教にも案内文書が届きましたので、お知らせ致します。

1. 当日午前中の宣伝、ビラ配布行動への参加を要請しています。
 - (1) 集合時間 6月3日 午前11時
 - (2) 集合場所 別海ふらとホール(ふらと広場前の建物)
 - (3) 内容 宣伝カー運行、アナウンス、チラシ配布。
2. バス乗車についての集約。釧路からの乗車を募集します。
料金は、往復1500円(片道1000円)です。
 - (1) 集合場所 勤医協 協立病院前
 - (2) 出発時間 10:30分(集合は10分前までに)

氏名報告を5月31日(木)まで

3. 連絡先
釧路労連 FAX 0154-23-8657 (☎24-1425)
釧路教組 FAX 0154-51-1667 (☎51-0476)

思いつくままに (その一)

私の歴史 戸澤喜志子

過日、戸澤喜志子さんから「私の歴史」思いつくままに」なる自分史を送って来ました。その本のあとがきに、新日本婦人の会のヨーガ小組で二〇年近くお世話になっている岸沢由美子先生のすすめ、自分史を書くことになりました。ボケない為にかかせてあげると言われ、毎月四百字あまり書き続けて三年近くになります。強引に奨められたので、まがりなりにも書くことができました。お陰で八十三歳の今、どうやらまだらほけ程度です。(中略)波瀾万丈の生きざまを読ませていただき、本人の了解を得て、何回かに分けて掲載することにしました。

一、幼児のころ

私は大正十年(一九二一年)東京市牛込区市ヶ谷八幡町一番地で生まれました。私の上の子が早産で亡くなったので、母は八幡様に願をかけ、お茶断ちをし、中条湯を飲んで丈夫な子が産まれるように努め、その甲斐あって丈夫な子が産まれたと何べんも聞かされた。(中略)大正十二年の関東大震災の時は、家は無事だったが続く余震の為、三日間神社の境内に蚊帳を吊って過ごしたこと、四歳のころ、新宿南口甲州街道添いの川の南側の住宅に移った。覚えてるのは朝のマラソンだった。母は妹を負ぶって私の手を引いて、二人の小学生の兄を「ソレソレ」と励ましながら駒下駄で明治神宮の裏参道を玉砂利をサクサクと鳴らして小走りに走った。母は明治二十三年産まれて長野の県立高女のテニスの選手だった。袴をはいて靴をはき、たすきかけて試合をしたという。卒業するまで、外から見えない屋敷内のリングの木に登って、うれたリングを食べるのが最高というオテンパで娘の頃から体力があった。庭が広く、はだしてマラソンをした。

妹を抱いて母は縁側に腰掛けていて、三人が一回りする毎に色の違ったマッチ棒を置いて、それぞれの回数を記録して表にした。はだしてパンツ一つで兄達と並んだ写真がある。小学校へ上がる前だった。今、八十を過ぎた老婆だが、元気に山を歩けるのは、母のお蔭だと思っている。

二、四谷管内藤町、小学校の頃

昭和のはじめ、父は弁護士事務所を四谷内藤町に移し、家族もそこに移った。父は非常な勉強家で、各国語に通じ、特にロシア語や、イスラム語を研究した。ユダヤの野望云々とその論証を上げ、ヒトラーを支持した。皇国の道、大和民族の優秀性を説き、国粋主義団体の理論的指導にも参画した。或る日、新聞全国紙一面に大きな顔があって、父は「いよいよやったか」と珍しく興奮していた。それは松岡洋右の大写しの顔で、国際連盟を脱退したニュースだった。朝日新聞でさえ、国際脱退をにぎにぎしく報じる世相であった。当時連載小説が吉川英治の宮本武蔵、挿絵が石川鶴三で、私はその絵が好きで、毎日大人が見た後、ゆっくり絵も文も楽しんで読んだ。小学校中学年の頃である。爆弾三勇士の偉業を何度も講堂で聞かされ、世の中は戦争への道につき進んでいた。従って、左翼運動への弾圧は激しく、この年に小林多喜二が惨殺されている。

私は信濃町の慶応病院西隣にある四谷区立第六小学校に通った。新設して間もない頃で、校長先生の教育方針を慕って進歩的な若い先生が多かった。任命級長でなく、選挙でクラス代表を決め、名前も「週番」だった。代表が集まって会議をし、規律を決めて運営した鉄筋コンクリート四階建てで、三、四階は高等科や実家女学校が入った。デパートにある様なスチームが通っていて屋上には太い短い煙突があった。隣の学校は火鉢とダルマストロブだった。四時間目になると、スチームの上に並べた弁当からおかずの香りがただよってきた。

(次号へつづく)